

自己（自園）評価・学校関係者評価報告書

令和6年3月31日

学校法人関口学園 明昭第二幼稚園

1. 本園の教育目標

幼稚園は子どもたち一人ひとりが安心して過ごし、自己発揮できる集団生活の場である。一人ひとりの興味や関心、思いを大切に、子どもたちの成長しようとする力、主体性を大切に心身ともに健やかな成長・発達を遂げるよう援助・保育に取り組んでいる。

本園では、次のような教育目標を掲げ、日々、保育を進めている。

○生き生きとした子ども 心も身体も健康で生き生きのびのび充実感いっぱいの子どもに

○なかよくする子ども 人とふれあい、生活する喜び、楽しさを持てる子どもに

○考える子ども 自分で考え、行動する意欲的な子どもに

○正直な子ども 人に迷惑をかけない、思いやりのある子どもに

○うるおいのある大らかな子ども 情緒の安定した感情豊かな子どもに

2. 具体的な目標や計画

評価項目に沿い、自己点検・評価することにより、自己（自園）の保育やクラス運営を見直し、新たな課題に取り組んでいく。引き続き新型コロナウイルス感染症対策を徹底しながら、安心・安全な保育を心がける。園内・園外研修により保育の質の向上に努める。幼児理解に基づき、保育の再構成・改善を図る。

3. 評価項目の取組及び達成状況

評価（A…十分に成果があった B…成果があった C…少し成果があった D…成果がなかった）

	評価項目	評価	取組み状況
1	《教育課程の編成と実施》 園の教育目標、幼稚園教育要領の内容、教育課程を理解し、それを基に子どもの実態を踏まえて、保育計画をたてている。	A	教育目標、教育課程を理解した上で、毎週学年全体で話し合い、週案をたてている。子どもにあった楽しい保育ができるようにしている。 一人ひとりの成長・発達を見守り、楽しさを伝えられる保育活動を中心に行う。
2	《保育の重点》 子どもたち一人ひとりをよく理解し、個性を大切に一人ひとりを尊重した保育、対応、評価をしている。 ○一人ひとりを大切に作る保育	A	子どもたち一人ひとりを理解し、言葉かけや援助をし、活動が楽しく実りあるものになっている。 頑張ったことを認め、良いところを伸ばすように努めた。
3	《保育の重点》 子どもの活動がより豊かになるように自ら活動を展開していけるような場所や空間などの環境構成をする。 ○主体性を大切に作る保育	A	子どもの興味や関心に合わせ環境構成するようにしている。保育者から遊びの発信し遊びを広げるとともに幼児の主体性を大切に必要と思われる廃材、素材を用意し、遊びのイメージや活動が膨らむようにする。
4	《研修による保育の質の向上》 園内外の研修に積極的に参加し、資質の向上をはかる。	A	学期に1回の臨床心理士の巡回訪問指導をもと支援が必要な園児の保育に活かしている。幼児期の性について考える研修、絵本

			<p>の読み聞かせ研修会を園内研修で実施。 東京都、葛飾区私立幼稚園連合会のキャリアアップ研修に参加し、保育の向上に努める。個々に研修内容の伝達はしたが、もう一歩進め、全員参加での共通理解を図ることが今後の反省・課題である。</p>
5	<p>《安全管理》 防災避難訓練、防犯訓練を実施する。 施設設備の安全点検を定期的に行い、危険の早期発見・早期対応をはかる。</p>	B	<p>学校安全計画を作成。毎月訓練を実施する。水防訓練を取り入れることが課題である。遊具点検を年1回実施、危険箇所を補修する。火災機器と学校110番装置点検年2回、防犯カメラの点検を行う。</p>
6	<p>《保健管理》 内科・歯科健康診断の実施と毎月の身長・体重測定。 手洗い（消毒）、うがい、マスクを着用し、感染予防対策を徹底する。 室内の喚起、消毒をし、衛生管理をする。</p>	A	<p>学校保健計画を作成。 5月に内科・歯科検診を実施する。 毎月の身長・体重測定をし、成長記録をとり、親子とも成長の喜びが感じられるようにする。 毎日の清掃により衛生管理を行い、コロナが第5類となったが引き続き、うがい、手洗いといった感染症予防対策を徹底する。</p>
7	<p>《預かり保育》 保育後の園での過ごし方を考え、環境整備する。 保護者の需要に応え、実施する。</p>	B	<p>専任担当者2名で実施するが1名が産休に入り、職員室教諭・パート職員でカバー。に延長する。定期利用を週2日以上に変更し、さらに利用しやすくした。 長期休みの利用者増により。担当教諭（日直）の増員を検討していきたい。</p>
8	<p>《保護者・地域との連携》 保護者へのメール連絡、動画配信や、クラスだより保育参観による情報の発信、日々の保育相談や個人面談による連携により子どもの育ちや保育理解を深める。 地域と連携して活動を行い、地域・地域の子育て支援にも貢献している。 小学校との連携を深め、小学校入学への喜びや期待感を持つ。</p>	A	<p>保護者に情報発信や保育への理解をいただき、保護者との連携については一定の効果が得られた。参観も日数を増やし、参加者数を増やし、コロナ以前の状態に戻す。 残念ながら6月の菖蒲まつりパレードは雨天中止となったが、商店街のメロンづくりに参加し、地域との連携を図った。 地域の子育て支援として2歳児親子の活動めいしょうプレイランドを月1～2回実施する。 幼児と児童間の連携ができるようになり、11月と2月に綾南小学校に訪問し1年生と交流をした。11月の園の作品展にも1年生を招待した。小学校への期待感を持つことができた。他学年との交流なども学校と協議して考えていきたい。</p>
9	<p>《施設設備》 施設・設備の点検、補修、改善、管理が適正に行われている。</p>	B	<p>指定業者による定期点検の実施。 新築から12.3年が経過し、経年劣化する箇所も増え補修箇所が多くなってきた。 危険度を考慮し、優先順位をつけ修繕に</p>

			あたる。空調機器をエコ補助金を利用し8月に購入・設置した。 デッキの修繕もしくは改修が今後の課題である。園庭についてはとりあえず凸凹をなくすよう工事を検討する。
10	<p>《満3歳児クラス運営》 2年目も募集、入園手続きなど問題なく進める。 室内設備、環境が十分に整え、担任など人員配置が適正で、子どもたち一人ひとりを援助・保育できる環境づくりに努める。 保護者との連携がとれ、相談しやすい環境となっている。 他の園児との交流が日常の活動の中図られている。 ゆったりと活動でき、親子で交流の持てるように行事を工夫する。</p>	A	<p>定員25名でスタートしたが27名が在籍することとなりイス、テーブルを補充。 12月生まれまで入園することができた。 人的環境も2人担任以外にパートの先生も補助に入り、一人ひとりを援助できた。 保護者との連携、連絡は都度行い、相談ができる環境づくりに努めた。 自由遊びやいろいろな場面で年長、年中児が面倒を見る機会があり、交流ができた。 運動会、生活発表会を単独で行い親子参加でゆったり楽しめ好評を得た。 希望者が多く、保育室が手狭となるため、6年度は2クラスにする予定である。</p>
11	<p><新規事業> 特色ある幼児教育補助事業 区の事業で1年間に最大300万円の補助事業。食育、SDGS、造形、絵本育の4事業が承認を得る。 1年間の活動を行う。</p> <p>ICTアプリ コドモンの利用 保護者、園内連絡などで利用。 諸費支払いもコドモン上で実施、</p>	A	<p>○食育では屋上菜園やプランターでの野菜の栽培、メロンづくり、5歳児カレーづくり、もちつき体験、給食センター見学、全園児の園でのみかん狩り、保護者のみそ汁作りを実施。SDGSプログラムの実施と体験により園児の意識が深まる。造形活動では感性と表現、絵本育では読み聞かせ体験と教員研修を保育に活かす。 ○保育や事務の効率化が図れ、タブレットを利用し、保育活動を記録するなどする。 保護者と情報を共有するツールとしたい。</p>

4. 総合的な評価結果

評価	理 由
A	<p>教育課程の編成と実施、保育の重点に関しては、幼児の実態に即して計画をたて、一人ひとりに寄り添う保育をすることができた。預かり保育についても年間計画、デイリープログラムを策定し、教育課程と関連付けた。研修による保育の質の向上では、各教職員が自己研鑽のため、積極的に研修に参加し、一定の成果は得ることができた。個々に情報伝達し、職員間で研修内容を共有する姿もあった。</p> <p>預かり保育は人的環境を整え、定期預かりの拡大、春休み利用日数の増加により保護者が利用しやすいものとなった。需要に応え、教職員又はパートの増員を今後検討したい。</p> <p>満3歳児クラスの保育も人員、環境が整い、入園手続きや運営などを順調に実施することができた。希望が多いため2クラスにすることも視野に検討する。</p> <p>保護者・地域との連携は小学校との連携で幼児と児童の交流がコロナ以前のようにでき、連携を深めることができた。施設・設備は優先順位をたて、危険度の高いものから取り掛かりたい。特色ある幼児教育事業補助を有効に使い、充実した保育活動が展開できた。</p>

評価 (A…十分に成果があった B…成果があった C…少し成果があった D…成果がなかった)

5. 今後取り組む課題

	課題	具体的な取り組み方法
1	教育内容	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き、幼児の主体性を大切に一人ひとりにあった保育を心がける。 ・意欲を育みながら食育、SDGS、造形、運動遊び、絵本育などの特色ある幼児教育を通し子どもたちの心と体を育てていく。 ・活動年齢、時期を考慮し、ゆったりとした計画、保育実践をする。
2	安全管理	<ul style="list-style-type: none"> ・水防訓練を年1回実施する。 ・危機管理マニュアルの理解を図る。(シミュレーション訓練の実施) ・業務継続計画、防災備品の充実を図る。
3	預かり保育	<ul style="list-style-type: none"> ・長期休みの担当者を預かり人数に応じ、増員する。 ・日常の預かり保育についても状況に応じ、担当者数増員を検討する。
4	施設設備	<ul style="list-style-type: none"> ・必要箇所の修繕。(年度当初に点検、確認) ・引き続き園庭の水はけ対策、園庭改善を検討し、園庭を整備する。 ・デッキの修繕、補修を検討する。 ・業者による点検と保守を定期的実施する。

6. 学校関係者評価委員会の評価

学校関係者評価委員8名により前出の自己評価11項目・総合評価につき評価をいただく。自園評価でB(成果があった)の5。安全と預かり保育については来年度への取組を含め、評価いただいた。その一方、9. 設備に関しては概ね経年劣化に対しては修繕を検討していることは評価いただけたが、1名の委員からは大きな修繕は現在行っていないので評価ができず成果はなかったとする厳しい意見もあった。5年度は点検実施や施工の相談などを行っているので6年度は必要な箇所から修繕に着手したい。

総合評価としては委員8名全員からA評価(十分に成果があった)をいただいた。

8. 保護者・地域との連携については新型コロナウイルスが第5類感染症となり日常生活が戻ってきたこともあり、コロナ以前の形になり連携が十分とれたと評価をいただいた。教育・保育に関する項目については、十分に信頼を得ており、今後も引き続き、活動充実に努めてほしいとの意見があった。課題を改善し、今後にかかして行きたい。

7. 2025年度の取り組み

評価をもとに改善に努め、引き続きより良い保育を目指します。

- 一人ひとりにあった丁寧な保育を日々心がけ、無理のない指導計画、幼児の主体性を大切に保育を引き続き、実施する。園内外の研修にも積極的に参加し、保育の質の向上に努める。
- 1クラス30名から20数名での保育の在り方、少人数の利点を生かした保育を研究する。
- 保護者との連携、地域との連携(菖蒲まつりのパレード参加や小学校との連携)を積極的に行っていく。保護者との連携はICTアプリのみでなく、対面での直接連携も大切にしていく。
- 施設設備は必要な箇所の点検・修繕に努め、デッキの修繕と園庭の改良を検討していく。
- 満3歳児保育を応募状況により2クラスとし、より丁寧で充実した保育を引き続き行う。

新規事業

- 葛飾区の特色ある幼児教育補助事業に運動あそび・科学遊びを加え、保育の充実を図る。
- 動画やインスタグラムによる園の様子や情報を積極的に発信していく。
- 私学助成園から新制度園へ移行し、経営の健全化を図る